



学校法人高知学園  
高知リハビリテーション学院

# 学 院 報

学院報第16号

学校法人 高知学園 高知リハビリテーション学院
平成24年 6月18日発行
発行
学院報編集委員会
〒781-1102 高知県土佐市高岡町乙1139-3 Tel 088-850-2311 Fax 088-850-2323 <a href="http://www.kochi-reha.ac.jp/">http://www.kochi-reha.ac.jp/</a> E-mail:kochi-reha@kochireha.ac.jp



これからのリハビリテーション

学院への抱負⑤

学院長 大倉 三洋

保護者の皆様には、ますますご清栄のことと拝察いたします。また平素は学院の教育・運営に関しまして、ご理解、ご協力を賜り誠に有り難うございます。保護者の皆様に少しでも学院のことを知っていただくとう始めました学院報も第十号の発行を迎えることになりました。

平成二十四年度も理学療法学科四十五期生(六九名)、作業療法学科二十期生(三九名)言語療法学科十六期生(三八名)を新たに迎え学生総数五三九名でスタートいたしました。学院のキャンパスにも学生の元気な声が響き活気に溢れ、四年生の長期臨床実習も理学療法学科は四月二日から、作業療法学科、言語療法学科も五月七日より始まり今のところ順調に経過いたしております。

前回の学院報にも書かせていただきましたように、平成二十三年度は高知リハビリテーション学院の教育環境の拡充・整備(図書館、合同教室、運動場、進路等)へのスタートの年として平成二十五年度の完成を目指しハード面での改革が進んでおります。本年度は更にソフト面から教育整備を具体化していきたいと思っております。

教育にとって大切なことは教員が専門的な知識や技術を教えることは勿論ですが、それよりも大切なことは教員が学生と共に歩む心を持ち、共に進化することだと思います。教員が力の限りを尽くして学生の学習面、生活面での悩みや問題点について共に考え解決(サポート)していこうという姿勢こそが大切で、口で言うほど簡単なことではないと思います。その悪戦苦闘の中から教育の喜びを得ることができるのではないのでしょうか。私は、教育の原点は寺子屋教育ではないかと思えます。そしてそんな教員がいっぱいいるのが高知リハビリテーション学院であります。

創立以来四十三年間の歴史の中で育まれ醸成されてきた本学院の伝統や卒業生との絆を、学生たちや、卒業生、保護者、地域の方々、そして教職員と共に守っていくと同時に、これからの高知リハビリテーション学院の歴史を更に積み上げていきたいと思っております。どうか今後ともご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

### 人間総合科学大学併修 についての報告

高知リハビリテーション学院では、平成12年から人間総合科学大学と併修提携を結び、併修制度を取り入れています。この併修制度とは、同時に専門学校と大学で学ぶシステムです。本学院は、豊かな人間性と高い知性をもつことで品位を高めるとい人間総合科学大学の理念に共感し、幅広い教養を身につけることが医療人の道を歩み始めたときに必ずや役に立つとの思いから、併修提携を結びました。

現在、約4割の学生がこの併修制度を利用していますが、平成23年度高知リハビリテーション学院卒業生のうち、27名が、人間総合科学大学人間学部人間科学科を平成24年3月25日に卒業しました。なおまた、平成24年度入学者数は24名になる予定です。

卒業生には、医療や介護・福祉の場面において大学で得た学識をもって対象者から信頼と敬愛の念を得て、活躍されるよう期待しています。

(教務部長 山本)



平成24年3月11日

<p>◆<b>学院長表彰</b></p> <p>作業療法学科 理学療法学科 言語療法学科</p> <p>吉本 知世 亀井 良次 廣瀬 静</p>	<p>◆<b>日本言語聴覚士養成校 教員連絡協議会優秀賞</b></p> <p>言語療法学科</p> <p>藤原 奈緒</p>	<p>◆<b>日本理学療法士協会優秀賞</b></p> <p>理学療法学科</p> <p>西村 周祐</p>	<p>◆<b>日本リハビリテーション 学校協会優秀賞</b></p> <p>理学療法学科 言語療法学科 作業療法学科</p> <p>森岡 久恵 木村 仁美 福富 静</p>	<p>◆<b>専修学校教育振興会 会長表彰者</b></p> <p>言語療法学科 作業療法学科 理学療法学科</p> <p>青木 優歩 北村 薫子 中山 智則</p>
--	---	--	--	---

### 国家試験結果について

国家試験対策実務委員長  
大塚 貴英

去る二月十八日に言語聴覚士国家試験、二月二十六日に理学療法士・作業療法士国家試験が行われ、本学院からは、言語療法学科一九名、理学療法学科五三名、作業療法学科四〇名が受験しました。どの学科も、教職員の指導及ばず、若干名の不合格者が出てしまったことは残念です。今年度の国家試験も昨年と同様に、どの分野も難易度は高く、全国の平均合格率が、言語聴覚士六一・三％、理学療法士八二・四％、作業療法士七九・七％となっています。このことは、厚生労働省が「療法の増加から質の確保」へと方針転換した現れであり、来年以降も国家試験の難易度は高いままとなることが予想できます。

### 平成二十三年度 就職状況

就職情報室

高知リハビリテーション学院における平成二十三年度求人件数(求人数)は、理学療法学科七二四件(二二二一名)、作業療法学科七三六件(二三八六名)、言語療法学科五四八件(一一三〇名)でした。毎年求人は五月から始まり、十一月にはピークを迎えます。臨床実習を終えた四年生は、十月から十二月を中心に卒業研究発表や国家試験勉強のさなか、就職説明会への参加、就職マナー講習、病院訪問、履歴書の作成等、就職活動に励みます。卒業生は、それぞれ希望の病院に就職が決定し、この四月より緊張しながらもフレッシュな理学療法士・作業療法士・言語聴覚士として働き始めています。



# 卒業研究発表会



これらの経験や卒業研究をやり遂げた達成感は、これからの臨床活動における探求心や問題解決能力、そして熱意や日々の努力へと繋がることと確信いたします。この学習経験を生かし、四十一期生が活躍されることを期待しています。

最後に、卒業研究作成にご協力・ご指導戴きました皆様方に深く感謝し、重ねて厚くお礼申し上げます。

理学療法学科  
補導主任 片山 訓博

理学療法学科第四十一期生五名は十二月に卒業研究の発表を行い、本年三月には第三十四号の卒業研究集を発刊しました。これも、平素よりご指導いただきました実習地の先生方、卒業生の先生方や多くの方々のおかげであり、厚くお礼申し上げます。卒業研究は学院における学業の集大成であります。発表当日は、その緊張感から日頃の学生生活では見せない一面を覗かせ、幾度となくトイレに行く者や原稿を真剣に読む者を見ました。論文作成でも、自分の意見を文章作成する困難さを経験していました。

これから先も状態を正確に捉えるため、その現象がどうして起こっているか疑問をもち、研究してほしいと思っただ三日間で、最後になりましたが、人間総合科学大学の近藤昊教授もお越しくださり、大変貴重なご意見を頂きました。どうもありがとうございました。

平成二十三年言語療法学科二期生の卒業発表会が本校の講堂にて行われました。

言語療法学科では、三年次より研究テーマ、担当の教員を決め、約二年をかけ研究を進めていきました。学生は、自分の知りたい事、疑問に思っている事、できる事は何かであるか多くの時間をかけ、七転八倒しながら研究を行いました。この経験により今後社会人としても求められる学ぶ姿勢が身に付いたと思います。

言語療法学科  
補導主任 吉村知佐子



作業療法学科  
補導主任 有光 一樹

平成二十三年十二月に三学科合同の卒業研究発表会が行われ、作業療法学科は四名が発表しました。卒業研究は、三年次からテーマを決めるのですが、受動的な学生が多く、自分から「について深く知りたい」といった能動的な発言は少なく、前途多難なスタートでした。教員にも多くのアドバイスを受け、テーマが決定すると真面目な性格から、大半が計画通りに進行し、卒業論文も無事完成させることができました。

テーマさえ決まれば実行できるのですが、自分で物事を決定することの難しさや、発表時に人前で自分の考えを話すことなど、今後作業療法士として必要な社会的行動が十分に経験できなかったと思います。この卒業研究で学んだことを生かして患者さんのために役立てる作業療法士に成長して欲しいと思います。



## 知っとうせ

### 《それから第15回の巻》

#### 専門学校であから

ご存知のとおり、高知リハビリテーション学院は四年制度の専門学校です。専門学校は専修学校専門課程とも呼ばれますが、修学期間が四年間であっても、大学ではありません。でも、大学に比べて医療系の専門学校で学ぶ専門(医学)的知識・技術の量はハンパではありません。医学・心理・社会福祉など学ぶべき知識は幅広く、理学療法・作業療法・言語聴覚療法それぞれの専門知識と技術は、卒業時点で既に一人前と認められるまでに、在学中の四年間で深めねばなりません。一般の大学の卒業に必要な最低の単位数は二四単位ですが、本学院では「理学療法学科一三七単位(三四五〇時間)・作業療法学科一三七単位(三六九〇時間)・言語療法学科一六二単位(三五〇時間)以上」となっています。単位数という言葉は馴染みが薄いと思いますが、これだけ見ても一割以上多いことが分ります。時間数は、大学では使われないので比較はできません。ただ、四年生の専門学校では卒業すると「高度専門士」という称号が得られるのですが、これには四年間で三四〇時間(二六単位相当)以上の履修が必要との文部科学省の規定があります。これは大学院への入学資格になるものであり、大学と同等かそれ以上の履修をした証といえます。

もちろん卒業後の臨床においては、病院や施設では患者や対象者と直接に接する診療する(一日のうちの時間が他の職種に比べて最も多くなります。患者や対象者の信頼を得るには、知識も技術も人間性も高めておかねばなりません。

このように、(医療系)専門学校であるからこそ、学ぶことが多く、大学よりも多い授業時間数で、さらに国家試験も控えていて、進級や卒業も当然に厳しいものとなります。

(教務部 山本)

# 学校生活について

言語療法学科二年

山崎 花菜

私は、高知リハビリテーション学院言語療法学科に入学して一年が経過しました。この一年さまざまな人と出会い、また新しい出来事が多く、とても充実した一年でした。

二年生になった現在は、オープンキヤンパスの準備を統括する役割を任せられ責任を感じています。しかし、クラスの仲間がまとまり、手伝ってくれるので楽しく充実しています。勉強の方でも、言語聴覚士に必要とされる専門科目、また訓

作業療法学科二年

廣末 良太

二年生に進級して、正直休みが少なくなつたように思う。しかしその分無意味にだらける事が、どれだけ自分の大切な時間を削っているのかが分かるようになってきた。「あの時にああしておけば良かった」「こうしておけば良かった」と何回も何回も思った。だから今はそんな後悔をしないよう、時間を出来るだけ有効に使うと心がけている。勉強ももちろん大切であるが、協調性

理学療法学科二年

大野 瑞穂

本学院に入学してから一年が経ちました。入学当初は勉強についていけないのだらうかと不安でいっぱいでした。しかし先生方が優しく熱心に教えてくれたり、先輩方も資料をくれたり、様々な援助のおかげでここまでやって来る事が出来ました。休み時間にはみんな勉強を教えあい、レポート作成にも協力して取

練や検査などを実践形式で行う演習活動も増え、ついていける心配ですが、先生方の指導や先輩方の助言を受け、精進していきたいと思っています。

私が言語聴覚士を志望した理由は、コミュニケーション能力に障害がある人を少しでも良くしたいと思ったからです。そのため私が今できることは、知識を増やし、仲間たちとよりよいコミュニケーションをとる、より良い言語聴覚士になる下準備をすることです。

これから多く身に付けなければならぬ知識や経験を同じ目標をもつ仲間たちとともに夢に向かって進んでいきたいです。

を持つ事も作業療法士にとって必要な事ではないかと最近感じている。人との付き合いや礼儀作法など、まだまだ自分に足りない事は沢山あるが、一つだけ自信を持っている事がある。それはこの学校の生徒ならみんな出来ているであろう「挨拶」である。この学校にいたら、それがいつの間にか出来て当たり前事になっていて、自分でも正直驚く事がある。外部の先生方がよく挨拶ができていて褒めてくださる事があり、自分の一番自信がある部分であるし、この学校の誇れる所でもあると思う。

り組んでいます。一人では大変なこともみんなやれることで乗り越えています。図書館の設備も整っており、空き時間に勉強をしに行くとかくさんの学生が熱心に勉強に取り組んでいる姿を見ることで、いい刺激になり自分の勉強への意欲も高まっています。勉強が大変な中、レク大会や学院祭など学校行事でクラスの団結力も深まり、楽しい思い出もできています。とても充実した学生生活です。

## 教員紹介



言語療法学科 櫻木 理恵

私は、本学院言語療法学科二期生として入学し、卒業後、成人分野・小児分野での八年間の臨床を行い、本学院に講師として戻ってきました。

今年度で教員として三年目を迎えますが、これまでに、十四期生の一・二年次の補導副主任を務めさせていただきました。この間、日々の関わりの中で、私自身が学



作業療法学科 笹村 聡

今年度より、作業療法学科講師となりました。笹村聡と申します。現在は作業療法学科一年生の補導副主任を務めており、担当科目は身体障害評価学や、評価手技、治療学を受け持っています。

十年前に本学院を卒業し、身体障害部門で県内の病院、施設に勤務をしていました。急性期、回復期、維持期と異動をして経過に合わせて



理学療法学科 片山 訓博

理学療法学科 講師の片山訓博です。学院に戻り九年目を迎え、これまで担任した学生を二度卒業させました。これまでの学生が卒業する四年間は多くの困難や出来事、思い出がありました。一年生より二年生、三年生、更に四年生へと困難を解決できるように成長してくれたようにも思われます。私事ではありますが、趣味の剣道を通じ学生と清らかな汗を週に一度は流すようにしています(実際は、練習後の一杯のビールのため

生達から多くのことを学ばせてもらったことを、今改めて感じています。

今年度より、今年度入学の十六期生の補導主任を任せられることとなりました。今回、補導主任となるのが初めての経験ですので、不安を感じることもありますが、それと同時に、学生達の日々変わっていく様子を見られることが楽しみでもあります。これから、共に成長していけるよう、学生と一緒に精一杯頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

たりリハビリテーションを経験してきました。施設にいた際には、入居されている方や、通所として自宅から通って来られる方へのリハビリや、また訪問リハビリに従事することもありました。身体障害の分野といっても病気や障害だけに目を向けず、その方の心のありようや今まで過ごされてきた環境、これからの生活に思いを至らせる必要があります。その点が作業療法、ひいてはリハビリテーションに従事においての特徴の一つになると思います。

かも)。この時は、学生はどうにかして私に勝とうとし、私もそれに対し負けじと一戦を交えます。剣道の言葉に「交剣知愛」とありますが、これは「剣を交えて初めて相手の愛を知る」とのことです。リハビリテーションも同じではないでしょうか？現在の指導の目標は、患者様に対して接した時、我々の「愛」を知っていただけじゃなく、セラピストを育てること、日々頑張っています。本年度からまた理学療法学科一年次生の主任をしていますが、まだまだ未熟でありまして卒業生を始め諸先生方には大変お世話になると思われますが、ご支援やご鞭撻の程宜しくお願ひ申し上げます。

# クラブ紹介

## 【ダンスサークル】

理学療法学科 二年 前田 莉彩

ダンスサークルは、基本的に踊りたい時に踊るといふ自由すぎるサークルです。普段はあまり活動していませんが、部員が集まったら学院祭のオープニングで踊りたいと考えています。その時には、1ヵ月くらい前から自分達で音楽や振り付けを考え、週に2~3回練習をしたいと思ひます(でも、バイト等の個人の都合にも合わせます)。私も高校のダンス部に入るまでは、ダンスなんか絶対無理だと思ひていましたが、実際に踊ってみるとなかなか楽しいものでした。誰でも踊れるような振りを考えようと思ひているので、一緒に踊ってみませんか。もちろん初めての人も歓迎です。今は本当に少ない人数ですが、今後賑やかなサークルになると良いと思ひています。

## 【ソフトボールサークル】

理学療法学科 三年 左京 宗顕

ソフトボールサークルは、毎週土曜日に土佐市の鳴川グラウンドで練習しています。練習時間は、9時から12時の3時間です。部員の中には、経験者だけでなく未経験者も多数在籍しています。また、男性ばかりでなく女性部員やマネージャーも在籍しているので、気軽に参加して欲しいと思ひています。そして、年に5回ほど一般の大会に出場し、昨年は12チームの中で優勝することが出来ました。部員が20名以上いるので、先輩方との情報交換も行えると思ひます。今後新入生が増えて更に賑やかなサークルになると嬉しいで



## レクリエーション大会

作業療法学科 二年 山沖 一哉

平成二十四年度のレクリエーション大会の委員長を務めさせて頂きました。〇工学科二年の山沖一哉です。今回、委員長という立場に立ち、わからない部分が多く色々戸惑うこともありましたが、他の委員や教務・学生課の森澤さん、そして去年の委員長の協力もあって怪我や大きなトラブルもなく無事に成功することができました。一年生は入学して初めてのイベントで戸惑うこともあったと思ひますが、この大会を通して友達との絆やコミュニケーションがより深まったように感じました。自分は人前に立つのが苦手な当日の説明の際にも緊張して上手く喋れず皆さんに迷惑をかけてしまいました。最初はレク委員長を辞退したいという気持ちでしたが大会を終えてやってよかったと思ひるようになりました。他の科の人達とも交流を深めることが出来て、多少苦手を克服できたように思ひます。



レク委員長として足りない部分が多くありますが、この経験を来年のレク委員長に伝え、今年以上に盛り上がるレクにすることを期待しています。

## 図書館だより

依光 朋子

図書館ポイントカードについて

昨年十月より、ポイントを決めると特典がもらえるポイントカード制度を始めました。本を借りると二ポイント、国試問題一問一答にチャレンジすると二ポイント、文献複写の申込をすると十ポイント、休日開館日に来館すると三ポイントとポイントがもらえます。ポイントカードは学生の皆さんは勿論、卒業生や学院の教職員にも適応されます。

気になる特典の内容は、十ポイントでマンガを三冊、二十ポイントでさらに三冊、三十ポイントになると一気に十冊借りることが出来ます。マンガは「JIN」や「医龍」、「るろうに剣心」、「のだめカンタービレ」など様々な種類を取り揃えています。また、十ポイントごとに図書館の本の貸出冊数を冊増やすことも出来ます。ちなみに図書館の本は一人五冊まで貸出可能です。

ポイントカードは図書館で預かり、その都度ポイントを押していますので、いつでも好きな時に自分のポイントを使うことができます。ポイントをためて、マンガを全巻借りたり、あともう一冊圖書を借りたいという時に使ったりと、必要に合わせて使いこなしてください。これからも図書館では、利用者の皆さんに役立つサービスを工夫していきたいと思ひています。皆さんの来館をお待ちしています。

## 保健室だより

上村 孝子

新学期が始まって二ヶ月、新しい環境で頑張った疲れが出やすい時期でもあります。自分の体調や心の調子を自分で知ることから始めましょう。それから、自分が一番楽しめることや好きなことをして、心も上手にリフレッシュさせましょう。六月と言えば梅雨に入り、ジメジメ蒸し暑い日が多くなってきます。湿度が高く蒸し暑い日が続くと思えば、急に肌寒く感じられる日もあります。気温に合わせて衣服を上手に調節して、体調を崩さないようにしましょう。【食中毒に気を付けましょう】六月から九月は食中毒が増える時期です。食中毒とは、有毒な微生物や化学物質を含む飲食物を食べた結果生じる健康障害です。多くは急性胃腸障害(嘔吐、腹痛、下痢などの症状)をおこします。食中毒予防の三原則をしっかりと守りましょう。

①調理の前には手洗いをしっかりと行い、食器や調理用具も洗浄・消毒する。②調理後は早めに食べる。③食品の中心部まで十分加熱する(七十五度で一分以上)。【もし食中毒になったら】軽症の場合は、水分を補給し消化の良い物を食べて様子を見ます。嘔吐や下痢が続く場合は早めに医療機関を受診しましょう。重症化する場合もあるので下痢止めは使用禁止です。最後に、学生の皆さんが心身ともに健康な学生生活を送れるように、保健室ではお手伝いしています。ケガをした時や体調の悪い時はもちろんのこと、一人暮らしの食生活のこと、精神面や身体面の心配事など、気軽に保健室を訪ねてください。

全国で活躍する卒業生シリーズ⑩

広島大学病院  
リハビリテーション部門 (診療支援部)

言語療法学科三期生

言語聴覚士

吉村安希子



現在、広島大学病院に勤務しています。吉村安希子と申します。言語療法学科三期生として学院を卒業して九年が経ちました。

広島大学病院は診療科が医科三科、歯科一三科、病床数が七四〇床あり、広島県の高度先進医療を担う機関の一つで、言語聴覚士は医科に三名、歯科に一名が勤務しています。

私が広島大学病院で勤務を始めたのは二〇〇八年からで、それまでは高知県の慢性期病院に勤務しており、成人の摂食・嚥下訓練、失語症訓練、構音訓練が主な対象でした。広島大学病院ではそれらの訓練の他に、小児の言語訓練、言語発達遅滞、構音障害など、人工内耳の調整などの訓練、聴力検査、音声機能検査、発達検査などの諸検査を行わなくてはいけなくなるため、勤務当初は仕事が勤まるだろうかという不安がありました。しかし、「急性期でも回復期でも慢性期でも言語聴覚士として行う内容は一緒。患者さんの症状を評価し、分析して訓練をする。その繰り返しだ。」という恩師の言葉を思い出し、「言語聴覚士としてすることが同じならば、精

一杯やれば大丈夫」と自分を励まし、おかげで今も楽しく続けることができています。

今の職場で四年目を迎え、気が付くと、脳腫瘍患者に言語機能を残存させながら腫瘍を摘出することを目的に行われる awake surgery (手術中に覚醒させ、電気刺激を行いながら言語症状が出る場所がないか確認をする) に参加したり、てんかん患者、パーキンソン病の患者の術前・術後の高次脳機能評価を行ったりなど、予想しなかった多くの経験をしました。聞いた事の無いような疾患の方に出合うこともあり、その都度文献を調べたり、医師に聴いたりしながら、幅の広い仕事内容、多くの職員との関わりにも慣れてきたように思います。

今年度で、言語聴覚士十年目となり節目の年だと感じています。この経験年数に相応しい知識や技術を身につけることができたかどうかと自問自答しながら、恩師の言葉を胸に患者さんや家族に寄り添いつつ質の高いリハビリテーションができる言語聴覚士を目指したいと思っています。



定食430円！ 美味！！

学院祭のご案内

学院祭実行委員長 作業療法学科3年 大西 洋平

今年も高知リハビリテーション学院の一大イベント、学院祭の季節が近づいてまいりました。本年度の学院祭は10月7・8日に開催致します。今年は毎年恒例のオープニングの餅投げをはじめ、豪華景品が当たるビンゴ大会や宝探しなど、地域の方々も自由に参加できる催しを用意しています。また、クラス自慢やカラオケ、仮装大会やバンドのライブなど学生が中心になって行うイベントや学科紹介などがあります。例年同様、実行委員を中心に企画を進めております。学生、教職員はもちろんのこと、地域の皆様にも楽しんでいただけるような企画を学院祭実行委員一同一丸となって準備しています。是非皆様をお誘い合わせのうえご来場されます事を心よりお待ちしております。

平成24年度前期行事予定表

4月5・6日	オリエンテーション 健康診断
4月7日	入学式
4月9日	前期授業開始
4月24日	レクリエーション
7月31日 ～8月6日	前期定期試験
8月7日 ～9月30日	夏季休業
8月10・11日	よさこい祭参加
8月18日	土佐市大綱まつり

就学奨励費について

土佐市のご協力を得て、土佐市在住者並びに土佐市内の賃貸宿舎に居住している学生に対し前期、後期それぞれ30,000円の就学奨励費が交付されます。該当する学生は平成24年7月2日(月)までに事務室庶務課に申請書等関係書類を提出してください。

通学バス運行について

平成23年度よりバス2台で 一の駅 ⇄ 学院間に授業にあわせ6往復の通学バスを運行しております。利用をお願いします。